第３回文化芸術部会議事概要

開催日時：令和８年１０月２０日（火）18：30～20:00
開催場所：名寄市役所　名寄庁舎４階第１委員会室
出 席 者：堺　卓也、堀川　真、石本　義行、草薙　進一、内田　明美、菅　歩、
　　高橋　祐美

１　開　会

２　議　事
事務局：議事（１）「N-ＣＯＬＬＥの試行実施について」の説明。

Ｐ委員：実際に参加した子ども達や保護者からアンケートを取ることが大事だと感じる。

Ｂ委員：これを基盤に検討を進めてよいと考える。広く周知するために魅力を伝えられる資料を作成する必要があると考える。

Ｌ委員：どう検証していくかが課題になると感じている。そのため、初めから広く協力団体を募集するのではなく、相談しやすい団体から進めていきたいと考えている。

Ｄ委員：団体と調整する事務局の負担が大きいと感じているため、協力を得やすい団体から実施することでよいと考える。取組みをやってみないとわからないこともある。

Ｑ委員：各学校を会場に実施するのか。各地域の子ども達が一つの場所に集まって行うものなのか。

事務局：各活動の実施方法によるものだと考える。実施するエリアについても検証していかなければならないと考える。

Ｃ委員：事前登録の際に、活動できる内容が明らかになっていることが望ましいと考える。また、事前登録ができる期間についても長く設定できるとよいのではないか。

事務局：事前登録の際に、年間の活動予定をお知らせすることや事前登録の期間、方法などについて今後、検討していきたい。

Ｌ委員：団体によっては２２時まで活動している団体があるが、この活動時間についてはどう考えているか。

Ｏ委員：遅くても２０時までが適切だと感じているため、１８時から２０時までの活動になることを考えている。

Ｃ委員：保護者の送迎を考えると、１８時から２０時頃の時間設定が適切であると感じている。

Ｐ委員：私が所属する団体では、２０時から２２時の間で活動しているため、N-ＣＯＬＬＥの指導を終えてから、私自身も活動できると考えている。

Ｑ委員：私が所属する団体では、学校が終わった時間から１８時頃までの活動を考えていたが、問題はあるのか。

事務局：２０時は最大の終了時間であり、早い時間で活動することを妨げるものではない。生徒の帰宅時間、団体の方の退勤時間、保護者の送迎などを考慮し、２０時までの活動として時間を設定している。

Ｌ委員：団体への謝礼についてはいかがか。

Ｏ委員：謝礼の範囲内で活動を行うことを考えるのであれば、余裕がある金額ではない。可能な限り子ども達が楽しく体験できる内容を考えたい。

事務局：定員の設定について、先着順としているが、ニーズをつかむために抽選にすることも検討している。ただし、抽選にした場合、申し込みから参加者決定までのタイムラグが発生する。

Ｂ委員：先着順であれば、周知のタイミングに差がないようにしなければならない。抽選の場合、中学生年代であれば、友達と一緒に行けないなどのデメリットが考えられる。また、抽選は事務局の負担が大きいのではないか。

事務局：ご意見を参考に検討する。会費については、持続可能な活動になるよう、受益者負担での運営も検討していくが、試行実施の段階で会費を徴収することについてどう考えているか。

Ｐ委員：将来的に受益者負担を考えていくべきだと考える。

Ｏ委員：令和９年度については会費を徴収せずに、参加者には今後会費等の負担が発生する可能性があることを周知するのがよいのではないか。

Ｂ委員：年度途中で他の活動に加入することも考えられる。試行の段階で参加者を呼び込むという点では、会費等を徴収せずに実施する方法がよいと考える。ただし、お金がかからないから参加する、お金がかかるなら参加しない層がどの程度存在するかによって、参加者数が大きく変動する可能性がある。

事務局：試行実施における検証段階において、会費等の負担が理由で参加者が少ない場合、検証に与える影響が大きいと考えている。

Q委員：試行実施で多くの子ども達に楽しい体験を提供し、本格実施の際にも参加してくれることが理想だと考える。

事務局：議事（２）「N-ＣＯＬＬＥの試行実施を通じた検証と方向性について」の説明。

Ｌ委員：国や北海道では令和１３年度までに休日における地域展開を完了する方針となっている。部活動の維持が難しくなっている中で、地域において持続的な活動を確保するには何が必要か。吹奏楽を含めた環境をどのように整えていくかという視点でご意見をいただきたい。

Ｐ委員：N-ＣＯＬＬＥの実施要項が精査されていけば、事前に行った文化芸術活動団体調査の時点では、十分に理解いただけなかった団体に対しても、協力を得られる可能性が高いと考えている。

Ｏ委員：N-ＣＯＬＬＥの周知を行う際に、協力団体の活動内容を詳しく周知することで、地域の団体への興味につながると考える。

Ｄ委員：活動を行うエリアを検証するべきだと考える。持続可能な活動にするためには、子ども達にとって魅力あるコンテンツを提供できるかどうかが重要であり、会費を負担してでも続けたいと思われる内容にする必要がある。

Ｃ委員：体験できる機会は間違いなく増えるものであり、子ども達のニーズに合った活動を地域で確保できるかが重要であると考える。

事務局：子ども達のニーズと、地域でできる持続可能な活動とのバランスが重要だと考えている。魅力あるコンテンツも重要だと認識しているが、地域目線で考えると既存の活動に過大な負担をかけず、無理なく継続できる環境を整えていかなければならないと考えている。

Ｐ委員：音楽関係団体においては、特有の楽器編成があるため、N-ＣＯＬＬＥでの体験は可能であっても、団体への加入が困難な場合が想定される。興味を持った子ども達が継続して活動できる受け皿として、市民楽団のような合同バンドが必要になると考える。他の自治体では、部活動指導員により指導を行っているところや、地域の楽団が子ども達を受け入れて活動している事例も聞いている。

Ｂ委員：市民文化祭などで発表の機会を確保するなど、中学生の活動を市民に見える形に

することが大事だと考えている。例えば、ボランティア活動であれば、生徒自身が企画した内容に市民が協働する取組みや、既存の活動に参画するようなコンテンツがあれば非常に魅力的だと考える。また、気軽に参加できるスタイルを想定する場合、軽音楽やダンス等の分野において、大学生が中学生に教えるような取組みも有効だと考える。

Ｃ委員：まずは部活動が設置されている活動を中心に、地域で環境を整えていくことが重要なのではないか。Ｎ-ＣＯＬＬＥのプログラムの中で検証を行い、その中で受け皿となる活動を確保できれば、そこからさらに活動の幅を広げていくことができる。こうしたステップを踏むことで、部活動を今後どうしていくかという大きな課題の解決にもつながると考えている。

事務局：Ｎ-ＣＯＬＬＥについては、本格実施を見据えた持続可能な仕組みや、本格実施した際の部活動との整合性や位置づけを検討しながら検証を進めていくことが重要であると考える。吹奏楽については、指導者や活動場所などの課題があるため、段階的に進めていく必要がある。Ｎ-ＣＯＬＬＥの中で検証しつつ、音楽関係団体と協議を重ねるとともに、既存の部活動に対しては部活動指導員の配置等の支援を並行して行うことが必要だと考えている。

３　その他

４　閉　会